

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録
(第 4 号)

1 平成9年3月13日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番	辻田実	2番	本橋亮一
3番	三上英男	4番	小幡一宏
5番	忍足利彦	6番	鈴木順子
7番	斉藤実	8番	増田基彦
9番	島田保	10番	宮沢治海
11番	秋山光章	12番	植木馨
13番	脇田安保	14番	永井龍平
15番	山崎雅己	16番	鈴木忠夫
17番	岩村勝弘	18番	日下君敏
19番	川名正二	20番	神田守隆
21番	山中金治郎	22番	榎本春光
23番	石井昌治	24番	福原勤
25番	飯田義男		

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長	庄司厚	助役	小幡清之
収入役	永野修	企画部長	寺嶋清
総務部長	鈴木完二	市民福祉部長	渡辺富雄
経済環境部長	小沼晃	建設部長	鈴木信一
水道課長	谷貝実	教育委員会 教 育 長	高橋博夫

1 出席事務局職員

事務局長	兵藤恭一	事務局長補佐	鈴木哲
書記	四ノ宮朗	書記	島本一樹
書記	鈴木達也	書記	松浮郁夏

1 議事日程(第4号)

平成9年3月13日午前10時開議

議案第1号 平成9年度館山市一般会計予算

議案第2号 平成9年度館山市国民健康保険特別会計予算

日程第1	議案第3号	平成9年度館山市老人保健特別会計予算
	議案第4号	平成9年度館山市ユースホステル特別会計予算
	議案第5号	平成9年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
	議案第6号	平成9年度館山市下水道事業特別会計予算
	議案第7号	平成9年度館山市水道事業特別会計予算
	議案第8号	平成9年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前10時09分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、議案第1号乃至議案第8号、平成9年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくくださるようお願いをいたします。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました4点についてお尋ねをいたします。

私の質問は、歳入歳出予算事項別明細書に沿って行います。まず、43ページをお開きください。議会費中の特別旅費について、328万1,000円が予算計上されているわけではありますが、この特別旅費についてお尋ねをいたします。せんだって、私の一般質問に対して市長の御答弁では、議員の海外視察の問題につきまして視野を広げてもらう旨の答弁でございましたが、私は視野を広げるという抽象的な目的では到底納得できないところであります。時間の関係もあって、それ以上の質疑に進みませんでした。この機会に再びお尋ねをいたします。

議員の海外視察についてであります。その目的について視野を広めるでは余りにも漠としたもので、物見遊山ではないかとの市民の疑問に答えることにはなりません。市長が多額の予算を支出する責任者として、海外視察の視察目的について具体的に示すよう求めるのは、市民の目か

ら見て当然のことではないでしょうか。議会への遠慮もあるのかと思いますが、本来は市長に言われるまでもなく議会自体が――議員自体が自らはっきりとさせておくのが筋ではありますが、市長がその支出に責任を持つ以上、市民に対してははっきりと説明できるようにしておくのも当然のことかと思うのであります。視察の目的について、その明確化を求めるべきではないかと思うのであります、いかがお考えになりますか。

次に、市の職員が海外に出張する場合も多額の経費がかかるわけでありましたが、この場合は当然視察の目的について具体的に明らかにするのではないかと思うわけでありまして。こうした市の職員の海外出張については、視野を広めるなどという抽象的な目的では当然支出されないものだと思いますので、その点についてどうなさっているのか、お聞かせをいただきます。

次に、47ページであります。委託料の中で、ニューファイリングシステム委託料ということで、予算が計上されているわけでありまして、情報公開に対応する新しい文書管理システムを構築するのだということが予算説明書の中で述べられているわけでありまして、まず現在の公文書の管理状態がどのような状況となっているのでありましょくか。現在でも現行の文書取扱規程があるわけでありまして、現実はいさえもきちんと実行されていない状態で、いわば現行の文書取扱規程に違反する状態ともいえるべき現状であるのかどうか、大変心配だと思いますので、現在の文書管理の現況についてどうなっているのか、御説明いただきたいと思ひます。

次に、9年度中に情報公開条例を制定するというごひごひありますが、それまでの間は文書公開には応じられせんよというのではなく、でき得る限り行政の透明性を高めるために、現行の文書取扱規程に基づいて、課長権限となっている公文書の閲覧にできる限り応じていくべきではないかと思うのでありますが、この点について市長はどのようにお考えになりますか。

次に、ここに逗子の情報公開条例がごひごひあります。お隣――海を渡った逗子ということになるわけでありまして、これから非常に神奈川県側との交流といいますか――近い関係になるわけ、お隣の神奈川県の情報公開がどうなっておるかということで、それとの比較ということも大変重要な今後のテーマになると思ひます。そこで、ここでは市民の知る権利と市の公開の義務ということをおうたっております。この情報公開を請求できる人は、何人というふうになっているわけひあります。すなわち、逗子の市民に限らずに、館山の市民が逗子の情報公開を求めることもできる。何人ひありますから、外国人が求めることも当然のことだとして前提にされているわけひあります。

請求の対象となる情報は、いわゆる未成熟情報と言われる――現在進行形のこうした情報についても公開の対象だというふうひにされているわけひあります。プライバシーにかかわる情報は非公開ひありますが、公開、非公開の決定までには7日以内に結論がひ出されるとされています。非公開の決定がひ出された場合ひには、これに不満がある場合は情報公開審査員、いわゆるオンブズマ

ンといいますか、これに不服を申し立てますと、このオンブズマンが是正の勧告を行うことができるようになっていくわけであります。費用は無料であります。だれでも気軽に市政についての情報を手に入れることができるように大変な努力をしているわけで、この情報公開条例は1991年に制定されておりますけれども、このようなパンフレットもつくり、市民への周知を図っているわけであります。

館山市政においてもN T T株購入事件などの重要な教訓は、隠し事のない市政にすること、市民の信頼の回復を図るために、情報公開条例はでき得る限り透明性の高いものにすべきだと思っております。この点についてどのように——新年度で制定をするということでありましてけれども、情報公開条例の基本的なスタンスとしてでき得る限り透明性の高いものにしていくということから、率直に申しまして神奈川県の情報公開は1歩も2歩も進んでいるというふうに私は認識をしているわけであります。海の向こうだということで、千葉県内の市町村だけを視野に入れていますと、非常に透明性の高いという点からするとおくれをとりますよということで、そういう視点も含めましてどういうふうにお考えになっておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、68ページでございます。老人福祉費に関してお尋ねをいたします。過日、共働きの御夫婦のごことでございますけれども、おじいさんがどうもぼけが始まったようで、毎日昼になると、このおじいさんに食事をさせるために奥さんが職場から急いで車で帰ってきて食事をさせる。午後の仕事に間に合うように、自分は車を運転しながら車の中でパンをかじる、こんなことで済ましている。こういう状態がとてもいつまでも続くとは思えないけれども、市として何か制度があるのか。こういうことで、問い合わせの相談があったわけであります。

ホームヘルパーの安否確認などの仕事の分野にもなるかと思うのでありますが、本格的な高齢社会というのは、こういうことがたまたま起こるという例外的なことではなくて、いわば日常ふだんに当たり前のようになる社会ということでありまして。介護の仕事を家族の責任でという今までの考え方では、家族のだれかが仕事をやめることになるわけでありましてけれども、それは社会全体で考えた場合、果たして効率的なことであるのかどうか。むしろホームヘルパーの体制を整備し、介護を社会的に支えるシステムをきちんとつくり、たとえ介護を必要とする高齢者を抱えても、その家族が引き続き仕事を続けられるとすれば、そのことの方が社会全体としては活力を保持できる、こういうことになるのではないかと思いますのであります。本格的な高齢社会になった館山の現在、ホームヘルパーは高齢社会というこの社会の社会基盤を支え、活力を維持し、高める上で欠くことのできない役割を担うものになってきつつあると思うのでありますが、このホームヘルパーの意義、役割についてどのようにお考えになりますか。

次に、ホームヘルパーの利用率が平成7年度では高齢者100人当たり館山市で66.1日であった。これは、決算での昨年の御答弁でありますけれども、全国の平成6年度の平均は88日であります。

千葉県では、この館山市の水準は第3位だったと胸を張れるのでありますが、全国の舞台に立ちますと全国平均をはるかに下回り、その75%程度だというのが現実であります。千葉県が全国の最低水準の利用率だからでありまして、全国最低の千葉県の水準と比べましても余り前進的なものにはなりません。館山市の現行の状況は全国平均を下回るこの現実がある、こういうところから考えるべきだと思いますが、いかがお考えになりますか。

次に、現在23人のホームヘルパーだと伺っていますが、平成6年当時福祉のまちづくりと称した館山市老人保健福祉計画を作成したわけでありましたが、この当時は今の半分程度でしたから、そのときから見ればホームヘルパーの数は倍以上にふえたということになるんでありますが、しかし平成6年につくりましたこの老人保健福祉計画では平成11年度までに54人のホームヘルパーの体制にしていくな、それが必要なことだということを出されているわけでありまして。当時の論議でも大変控え目の予測で算出された目標値ではないか、こういう批判をしたところでありまして、現在の状況では、それすら達成が困難ではないかと思うのでありますが、この見込みについてどう考えておりますか。

次に、ホームヘルパーの身分の問題であります。土曜や日曜などの休日も含めて年間を通してホームヘルパーの仕事のない日はありません。早朝の仕事や夜間の仕事ということも今後検討されることになろうかと思えます。ホームヘルパーの専門性がますます重要な意味を持つことになると思われます。ホームヘルパーの待遇についても時間給扱いの場合と常勤の扱いとの場合があるわけでありまして、国の基準によりますと時間給で920円、これに対して常勤職員で月額28万1,320円となっているわけでありまして。私は、ホームヘルパーの方々の勤務の対応は、いわゆるパート的勤務状態ではなく、常勤職員として勤務していただいて、制度としての安定性をしっかりとしたものに考え直すべき時期に来ているのではないかと思うのでありますが、いかがお考えですか。もちろん個々にはいろいろな条件もあると思いますが、基本的な方向としてホームヘルパーの常勤化を検討すべきだと思います。いかがですか、お考えをお聞かせください。

次に、千葉県は首都圏の中ではホームヘルパーに対する市町村への人件費補助を実施していない唯一の県であります。このため、先ほど来指摘しておりますように、千葉県は全国でホームヘルパーの普及率が最低クラスとなっているわけでありまして。福祉に大変おくれをとっている現況が出ているわけでありまして、県に対しホームヘルパーの人件費についても、首都圏の他県が実施しているように補助制度を求めることが必要ではないか、それがまた館山市におけるホームヘルパーの今後の普及の上でも促進することになるのではないかと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますか。

次に、生活援助型配食サービスがこの1月からようやく実施されたわけでありまして、市長のお言葉の中でも大変評判がいいというふうにありましたが、私自身も市民の評判は大変いいもの

だというふうに聞いております。関係者の方々の大変な努力によってこうしたことができたことだというふうに思いますが、その普及の状況について御説明をいただきたいと思います。今後またさらに急速に普及していく要素も持っているのではないかと思いますので、その辺についてどうお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、101ページでございます。道路新設改良費についてお尋ねをいたします。那古の閼伽井下排水路は内房線の線路の下で水路が狭くなっているために、去年の台風17号の豪雨ではそこがネックとなって、その上流域一帯が道路冠水、床下浸水などの被害を出しました。今までも毎年雨のたびに泣かされてきたところでございますが、昨年ようやくJRとも協議を重ね、このネックを解消すべく市の予算措置が求められていたところでございました。しかしながら、新年度の予算ではこれにかかわる予算計上が見当たりません。この整備について、市はどのように考えているのでありましょくか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、102ページのところになりますが、閼伽井下排水路予算など生活道路あるいは排水路の整備予算が新年度では5億2,000万円が計上されているわけでありましたが、去年は6億5,000万円ほどでございました。去年に比べますと約1億3,000万円の減額になっているわけでありましたが、大変大幅な減額であります。その理由は何でありましょくか。生活道路の舗装や側溝の整備などのこの予算は、生活に密着したもので、市民の要望の高い予算であります。我々議員としても、住民の要望を聞いて市に要望するという上でも大変身近に感じている予算であります。昨年作成をいたしました館山市の基本計画の中では、次のようにあります。市民からの要望の高い道路排水設備についても引き続き道路改良とあわせ積極的に推進するなど、地域の実情に合わせた道路整備を進め、利便性を高めるとともに、安全性や快適性を確保する必要があります。積極的に引き続き進めますよというのがこの市の計画の中身であります。既に市民の要望は充足した、したがって予算の必要はないというような状況では決してないはずであります。なぜこうした生活に一番密着した予算が今回大幅な減額になったのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第1号平成9年度館山市一般会計予算に関します議会費の特別旅費についての御質問でございますが、議員の海外視察につきましては議会内で協議し、実施しているものと考えております。

2点目の市職員の出張につきましては、研修目的を定め、実施しております。

次に、ニューファイリングシステム委託料についての第1点目、現在の公文書管理状態につい

ての御質問でございますが、文書の保管、保存については十分とは言えないのが現状でございます。公文書の閲覧についての御質問でございますが、閲覧を承認する基準がございませんので、平成9年度中に情報公開条例を制定し、公開の基準を明確にしたいと考えております。

情報公開条例についての3点目、原則公開を基本に検討を進めてまいります。

次に、老人福祉費についての第1点目、高齢化社会におけるホームヘルパーの役割についての御質問でございますが、高齢者等が在宅生活を送るに必要なサービスであると考えておりますので、利用者数の状況に応じてマンパワーの確保に努めているところでございます。

2つ目の利用率についての御質問でございますが、館山市におきましては市民からの要望に応じ、サービスの必要な方々にすべてホームヘルパーを派遣しているところでございます。

3点目の老人保健福祉計画の目標値についての御質問でございますが、今後とも市民からのホームヘルプサービス事業に応じた体制づくりに努めてまいります。

次に、ホームヘルパーの身分についての御質問でございますが、館山市といたしましては現在の雇用形態で差し支えないものと考えおります。

次の5点目、ホームヘルパーの人件費補助についての御質問でございますが、現在の人件費の負担割合は国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1となっております。

次の6点目、生活援助型配食サービスの普及についての御質問でございますが、市の広報紙及び民生児童委員等を通じ、PRに努めているところでございます。利用者は、本年1月6日のスタート時点では43名でございましたが、現在では93名となっておりまして、非常に好評でございます。

次に、新設道路改良費についての第1点目、関ヶ井下排水路の整備についての御質問でございますが、平成8年度に基本設計を実施したところでございます。これから詳細設計の実施、JRとの協議等を行い、順次整備をしていく予定でございます。

次に、2点目の生活道路排水路整備予算についての御質問でございますが、平成9年度の土木費関連予算は増額となっておりますところでございますが、大型事業等の予算を踏まえた中での実施事業の選択による予算配分をしたことによるものでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） まず、特別旅費——海外視察の問題でありますけれども、目的については議会内の協議でというお話でございます。確かにそのとおりで、なかなか言いづらい——遠慮があるのかなと思うのですけれども、むしろ議員の皆さんに言うべきなのかもしれませんけれども、やはり余り抽象的な内容で市民に説明がつかないんだ、こういうことをしっかりと踏まえてこの問題を今後考えていくべきだということを強調しておきたいと思います。この問題では、

同時に、行きましたということで、報告書を提出するという問題についてもこの間の議会の中でお話をいたしましたけれども、このことも大事なことだと思うんです。結局このことをあいまいにしておきますと、法律的にはやはり市長さんあるいは収入役さん、ここに不当性支出だとか、違法支出だとかという、こういう問題になると法的な責任は市長さんあるいは収入役さんというところにいかれるわけです。そういうことを踏まえますと、やっぱりこれはきちんとだれに対しても説明のつく形に整えておく必要は——絶対必要なことではないかなと思うんです。そういう点ではいかがなんですか。報告書の提出というのは、今後はぜひやりますよというふうに確認してよろしいんですか。これは、市の職員の場合には当然やっていることでありますから、それに準じてぜひそうすべきだと思います。また、議員も当然そうやって市民の皆さんに説明のできるような形でしなければ、これは実施すべきでないということを言っておきたいと思います。

次に、情報公開の問題でありますけれども、基準がないからとりあえずの情報閲覧には応じられないのかということなんですけれども、基準はないという——文書取扱規程では課長の権限でやれますよとなっているんです、閲覧は認めます。課長がいいと言えば——これが基準なんです。けれども、余りにもこれじゃ漠としています。あるときは見せます、あるときは見せませんとかという問題になっても困るというのは、それはそのとおりだと思うんですが、しかしその基準があるという現実には現実です。ですから、情報公開で基準を定めるまでは実際それやりませんよというのもどうかなと思うんです。もちろんだれが見てもプライバシーにかかわりますよというようなことは、これはできないでしょう。しかし、そうでないような——明らかに何か情報隠しやってんのかな、隠し事やってんのかなと思われるようなことはやっぱり避けるべきだし、できる限りそこは前向きに考えていただきたいと思うんです。その辺はどうなんでしょうか。

情報公開条例については、これから大きな議論がされなきゃいけないところだと思いますけれども、市長さんは原則公開だ、これは当たり前なんです。情報公開というのは公開なんですから。そこで、少し突っ込んだお話をお聞かせいただきたいんですが、1つは、どこでも論議になることでありますけれども、情報公開条例の法的な性格ということで、知る権利の明記という問題、これはどうなんですか。それから、請求権の権利者、これはどのようにするんですか。それから、請求の対象となる公文書については、いわゆる現在進行形の未成熟情報についてもどう扱うのか、この辺はどう考えるとか。それから、非公開あるいは公開、この審査期間をどの程度——私が知る限りでは逗子の7日というのが大変早いというふうに思いますけれども、この期間、そしてそれに対する非公開決定が出た場合の救済措置、これは裁判でやられるというのはよく報道されますけれども、裁判というのは手続も大変ですし、できる限り迅速にその解決を図るということで、いわゆるオンブズマン、こういう制度を逗子の場合は設置しているわけですが、こうした救済方法をどうするのか。それから料金について——原則無料、こういうことについてはどうなのか。

細かいことになりますけれども、現在どういうふうを考えられて条例化が検討されているのか、お聞かせいただきたい。一応骨組みになるポイント点ということで、お聞かせいただきたいと思っています。

次に、老人のホームヘルパーの問題でありますけれども、これはなかなか大変な問題で、サービスの必要な方に館山市としてはでき得る限りのことをやっているという現状は、私も率直に評価をいたします。しかしながら、なかなかホームヘルパーの必要量が — 需要が生まれてこないというのはやはりPRの問題もあるいはあるのかなということもありますから、そういう点での工夫がさらに一段と必要だろうという、そういう点での努力も考えなければいけないかなと思いますが、同時に、制度の運用をできるだけ弾力的にそのケース、ケースに応じてできる限り対応できるようなことということで、大変な努力をされていることを私率直に認めますけれども、さらに時間外の扱いなども今後相当考えていかなきゃならない分野なんではないかな — 佐倉では24時間ヘルプ体制なんていうようなことまで始めたようでございますけれども、将来的にはそういうことも視野に入ってくるような問題でありますから、館山の場合は365日、正月以外はほとんどやっているというふうに伺っていますから、非常に努力されている点は認めますけれども、まだ夜間の時間とかあるいは早朝の時間ですとか、そういうことの対応も含めまして考えていかなきゃならないと思うんです。そういう点はどういうふうにお考えになっていますか。

それから、老人保健福祉計画は平成11年度までにという整備計画なわけですが、中間点で見直しをしますよということで、市民学識経験者及び関係機関を含めたフォローアップ体制の組織づくりを行います、この達成を推進するために中間地点で計画の見直しを行って、さらにそれを達成するための組織づくりも改めてやりますよというふうに、そこまでいって何としてもこの計画達成しましょうよというふうになっているわけなんです。ところが、いざ中間点を過ぎた時点になった現在、どうもこれをつくったときの熱意から見ると、その辺は一体どうなってんのかな、改めて市民の意見も聞き直ししながら計画をさらに充実させていく。市民の暮らしの具体的な場面に沿って充実させていくということをしなければならないんだろうと思うんですが、その辺でどういうふうにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

それから、ホームヘルパーについては、老人保健福祉計画では社会福祉協議会の委託、これを検討するとなってるんです。ですから、初めは市が直営でやるつもりはなかったんだろうな、社会福祉協議会がホームヘルパーの事業は実施主体になるということを想定していたんだろうと思うんですが、市直営ということでずっとやってきたわけでありますけれども、その点でも直営でやるならやるということで、はっきりと決めておかないことがホームヘルプ事業全体について何か腰が定まらないといえますか、そんなニュアンスを非常に感じるんです。そこで、社会福祉協議会の委託云々の問題はどんな経過があったのか、直営でいくならその結論を出すべき — そう

いう時期なのではないかと思いますが、この辺はどう考えておられるのか。

次に、道路の問題でありますけれども、閼伽井下の排水路については雨のたびに周辺が水で泣かされてきたわけでありまして。ようやく明るい希望が見えてきたなということで、改良の方向ということが出されてきたわけですが、何か明るい希望が見えた先に新年度の予算に計上がないということで、詳細設計の段階まで詰めてきたのが今回なくなっちゃっているわけで、これは今後補正予算とかそういう中で検討される余地があるというふうに理解できるのかどうか。ここは1年先延ばしになるけれども、協力してもらいたいというのが――はっきりそういうことなのかどうか。

それから、生活関係予算で、確かに土木費全体が大幅にふえた、駅であるとか西口であるとか、そういう中で生活関連予算がそれと相殺でこういうふうになっちゃうのかもしれませんが、非常に削られたというのが――駅が通るんで生活道路、生活排水が削られたということは考えたくないわけです。もともとこれは基本的な問題としてずっと維持してきた予算だけに、これは並々ならぬ問題がここにあんのかな、こういう感じをするんです。これはやっぱりこんな減額状態というのは、今後補正の中でできる限り考えていってもらえとか、あるいは来年度――新年度、その翌年度、平成10年度にはちゃんとこれについては回復もさせるし、それによって滞った問題については手当てもしていくんだとか、何かその辺のことがあるのかないのか。一方的に削られっ放しだというふうになるのかどうか、その辺のお考えはどうなのか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） それでは、情報公開に関連いたします2つの御質問にお答えいたしたいと存じます。

まず、公文書の閲覧、現行文書取扱規程におきます閲覧の関係でございますけれども、前向きに考えてほしいという御要望でございますが、先ほど市長から答弁申し上げましたとおり、文書管理が正直なところ十分なされておらないということがございまして、またその管理方法をニューファイリングシステムという形で今後早急に整備していくという過程にございます。

それからもう一点、公開、非公開の区分――基準につきまして館山市行政改革懇談会等の御意見を承っているところでございますので、慎重に対応してまいりたい、そのように考えております。

次に、条例化に当たりまして知る権利を明記すべきだということ、あるいは権利者をどうするのか。あと公開の公文書に未成熟情報――意思形成過程情報と申しましょうか、そういった情報を含めるのか。あと救済措置でありますとか料金の問題でありますとかお話ございましたけれども、これらの点、申すまでもなく情報公開条例の大変重要なポイントになるところでございます。

ただいま申し上げましたように、これらにつきまして館山市行政改革懇談会の御意見あるいは議会の御意見を承りながら今後条例化 ― これらの問題に1つずつ解決といいたいでしょうか、結論をつけてまいりまして、条例化を進めたい、そのように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄） 御質問3点ございました。まず、1点目がヘルパーの利用の拡大、今後どうするのかという御質問でございますけれども、現在平日に加えて、さらに土、日につきましても平成7年度から開始をしております。今後夜間の利用への拡大ということも検討する必要があるわけでございますけれども、老人保健福祉計画の計画にのっとって今後利用拡大に図ってまいりたいというふうに考えております。

それから、計画の見直しについての2点目の御質問でございますけれども、この見直しにつきましては現在介護保険制度、国において協議中でございますけれども、これが制度導入化された時点で、国の方から見直しにつきまして指示があるというふうに話を聞いております。それを踏まえて今後検討するというところであります。

それから、3点目のヘルパーの委託 ― 計画の中に社会福祉協議会への委託という事項がございます。とらえ方はありますけれども、これは今後利用拡大を図る中で弾力的に運用する方法もあるのではないかという視点から、社会福祉協議会との連携も1つの方法であるというとらえ方をして計画に載せたわけでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、関ヶ井下排水路の整備についてでございますが、JRとの計画協議が終わったところでございまして、今後JRとの施工についての協議等行いまして、順次整備を進めていく予定でございます。それから、生活道路の排水整備の関係でございますが、御指摘のとおり市民生活に身近な道路排水整備につきましては、年次的に逐次整備を進めているところでございます。今後緊急性を要する場面等ができましたらば、補正等で対応を考えてまいりたい、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 事務局長。

◎事務局長（兵藤恭一君） 順序が逆になりまして申しわけありませんでしたが、第1点目の議員の海外視察につきましては議会の問題でございますので、私からお答えを申し上げます。

報告書の関係について御質問がございましたが、今後議会内において協議をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

次に、1番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 平成9年度の歳入歳出予算事項別明細書の順に従いまして質問を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

38ページ、20款市債16億 7,920万円についてお尋ねを申し上げたいと思います。本年の1月号に財政状況の報告が公表されておったわけでございますけれども、それによりますと現在の市の起債残高は161億 8,504万円ということになっております。したがって、9年度の起債額を加えますと178億 6,000万円という数字になるわけでございます。この数字は、9年度予算案の予算総額が158億 8,000万円でございますので、19億 8,000万円を上回る大きな額になっておるわけでございます。予算を上回るところの起債が2年前からこのようになっておるわけでございますけれども、こうした状況をどのようにお考えになっておるのか、お伺いしたいわけでございます。

そして、歳出の面でも予算に占める割合は年々増加をいたしております。平成5年度は8.8%でございました。昨年は10.6%、9年度は10.8%と年々膨らんでおるわけでございます。そこで、質問をさらにいたしますけれども、市債が予算を上回り、その負担率も予算に対しまして10.8%と大きくなった財政状況をどのように御認識なされておるのか、改めてお伺いするところでございます。さらに、県下の市におきましては市債が予算を上回っておるところは少ないのではないかと、ぎりぎりのところまできているのはあるようでございますけれども、この状況はどういう状況になっておるのか、対比されたことがございますのでしょうか、その内容を教えていただきたいと思います。

もう一つは、この二、三年大型プロジェクトがメジロ押しに館山市には計画されておるわけでございますけれども、こうした大型プロジェクト推進に当たりまして、現在の起債残高は大きな支障を来すんじゃないかという心配もされるわけでございますけれども、この点についてはどのような見通しを立てておられるのか、ひとつよろしく御答弁のほどお願いしたいと思います。

2番目に、47ページでございます。13節委託料 480万円でございます。これは、先ほど神田議員から質問がございましたので、重複を避けたいと思います。ただいまの論議にもございましたように、市長は平成9年度に条例制定を目指すということを言われておるわけでございます。と同時に、ただいまの質疑の中で残念に思ったのは、文書を公開するに当たっては文書管理が十分できてないのということでございますので、こうしたことがこういう場所でもって語られるということについては非常に残念で、市の行政事務というのはきちんと管理して、いつでもどこでも市民から要求があった場合にはそれに対応できるような――対応するかしないかは別にしても、

できるような文書管理がきちんとされていなきゃいけないわけでございまして、行政というのは文書管理がきちんとできているということが第一条件でございます。こうした点がこういう状況であると、これからニューファイリングシステムを進めていくのに非常に労力かかるんじゃないかと思います。私は視察でもって、ことしは相模原、さらには昨年は小樽のそれぞれ情報公開条例について勉強してまいりましたけれども、非常に時間と労力がかかるわけでございます。短期間の間にできるという状況じゃないんじゃないかと思うわけでございますけれども、この点館山は今の状況でもって文書管理が不十分だという中で、なおかつ今年度条例制定していくということについて、しかもまたそれはニューファイリングシステムというものの、この文書整理だけでも非常に時間——2年、3年かかるということでございますけれども、こういう状況の中で果たして480万円の予算でもってどの程度進むのかということ、年度条例制定について全くけたが違うんじゃないかという感じがするわけでございますけれども、そこでもって480万円を委託するわけでございますから、どこにどういうものを委託して、どういう結果を得て、それが即ことしの条例に結びつくのか。そして、文書管理が不十分だと言われているものが、この短期間の間でもってこの予算で遂行できるかどうかということについて、ひとつわかりやすく説明していただきたい。私は、本当に情報公開というのは急務な問題なものですから、こんな予算でなくて、この1けた上の予算が計上されて一挙に進むべきだというふうに思うわけでございますけれども、遠慮したのかどうか、そこら辺についてひとつ御見解を聞かせていただきたいと思います。

それから、51ページでございます。19節負担金 100万円について質問いたします。これ真ん中辺にありますMANGA共和国事業化推進検討委員会についての負担金でございますけれども、この推進検討委員会は民間等を含んだ委員会を設置するということであるそうでございますけれども、どのような構成になって、そしてどのような目的を持った委員会なのか、その点をお伺いしたいわけでございます。特にこの点で関連してお伺いしたいのは、一昨日来問題になっておりますところのMANGA共和国の土地買収がまだ53%しか進んでないという中でもって、そして本年度の予算は1億数千万円でございます。これを全額買ったとしても3%か4%しかふえません。この調子でもって仮定すると、10年かかっても70%ぐらいしかたないという中でもって事業化推進を今検討して、果たしてそれがすぐに実行できるような問題であるのかどうかという点について危惧されるわけでございます。この点についてあわせて——むしろ私は土地買収をやはり90%以上完了して、そしてその見通しの上に立って事業化しなければ、事業化の方向は出たけれども、土地がだめだということになりますと、非常にそこにロスと、それから市民の期待と、それに対する不信というものが出かねないという心配がありまして、MANGA共和国については賛成でございますけれども、まずその1として土地の買収が済んでない中でもって進まない、この関係についてどのように考えておるのか、お伺いをいたしたいと思います。

それから、4番目に109ページでございます。109ページの13節委託料でございます。ここに館山駅橋上駅舎等建設工事委託料と書いてありますけれども、この委託料は説明によりますと5億7,000万円であるわけでございます。この5億7,000万円につきましては、自治省の認可の得たところの駅舎部分ということであるわけでございますけれども、このような形でもって駅舎部分の予算を独立させて計上するということが十分なのかどうか、この点についてお伺いしたい。

続きまして、これ関連する問題でございますから、149ページ、ここの債務負担行為による駅舎建設費が計上されておるわけでございます。これによりますと、限度額は8億7,990万円、平成10年から11年度にわたって行われるということでございます。したがって、これを合算をいたしますと14億9,990万円ということになるわけでございますけれども、ここでもって当初計画でもって公表されてきたのはおおむね18億ぐらいということが言われておったわけでございますけれども、その後かなり縮小しているの、経費は削減されていくということは言われておりますけれども、実際にここに予算化に入ったわけでございますから、この誤差が非常に大きいようでございますけれども、どういうことなのか、当初の計画どおりにいくのか、どのような形でもって縮小されていくのか、そこら辺について御説明をいただきたいと思ひます。

3番目に、ここでもって問題なのは、平成9年度の予算で5億7,000万円、そして債務負担行為によって予算の執行がなされるのは平成10年度から11年度ということになります。したがって、この承認というのは9年度の債務負担行為になりませんので、これは予算は10年度になるわけでございます。当然11年度完成ということを目指しておるわけでございますから、今年度中に建築契約を完了して工事にかからなければ、相当ピッチを上げてやらなければ完成しないわけでございますけれども、予算が現実的には5億7,000万円しか計上されてない。10年、11年度の債務負担行為でもって8億7,000万円ということであるけれども、契約の段階でもって一括してできるのかどうか、14億という形でもって。そして、14億でやった場合に資金の支払い、予算の計上についてこういう形でもってスムーズにいくのかどうか、この点について非常に心配なわけでございますので、どうなのか説明をしていただきたいと思ひます。

それからもう一つは、設計、契約は当然1つの建物として設計され、そして1つの建物として建設契約がなされて、そして工事に入ると思ひわけでございます。その場合に自治省に許可受けて寄附する部分——JRに寄附する部分とJRの負担金を含んだ額と、それから市の建物として残りの分——約9億ぐらいを市の建物として建てるわけでございますから、その区分というのはできるのかできないのか。今後管理の問題、それから将来これの監査の問題出てきます。市有財産の監査の問題、そういうような問題についてこういう予算をばらばらにした中でもってスムーズにいくのかどうか、これはもう今の段階になって駅が一日も早くできなければ大変なことに

なるわけでございますから、そこら辺の点についてはこういう予算の組み方でもって十分クリアできるのかどうか、この点についてひとつわかりやすく教えていただきたいと思います。

5番目の質問でございますけれども、130ページに戻ります。130ページの4目文化振興費中、13節委託料、公演等委託料という項目が2番目でございます。これは、補足説明によりますと1,868万円であるそうでございますけれども、この委託先はどういうところなのか、そして委託する内容、これは公演でございますから、どういう公演をどういう形でもって委託されるのか、68万円とかという端数が出てきておりますから、かなり公演の回数だとか内容、そういうものがはっきりしているんじゃないかと思っておりますけれども、そこらの内容をひとつ明らかにしていただきたいと思います。

それからもう一つは、次のページの19節負担金のところでございますけれども、ここに舞台芸能事業費負担金ということでもって1,205万円があるわけでございますけれども、これは県の文化振興財団等の共催ということになっておるわけでございますけれども、この共催の形はどういう形で共催をしていくのか。県が中心になってやっていくのか、それとも市が中心にするのか、その役割分担等どういうふうになっているのか。県の文化振興財団等というところは、どういうところの団体が想定されるのか、この点についてひとつ御説明をいただきたいと思います。

以上、答弁により再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第1号平成9年度館山市一般会計予算に関します起債残高についての御質問でございますが、平成9年度末で182億2,000万円となるものと見込んでおります。平成9年度一般会計当初予算額を上回っておりますが、このうち約44%は後年度の償還に対し地方交付税で措置されるものでございます。今後も地方債の借り入れに当たりましては抑制基調とする中で、後年度の償還に対し地方交付税措置のあるものの借り入れ等、将来の財政負担の軽減を図りつつ健全財政の維持に努めてまいります。また、県内各市の状況につきましては、平成8年度において一般会計当初予算額と年度末地方債残高を比較し、当初予算額を上回っております市は7市でございます。

2番目のニューファイリングシステムについての御質問でございますが、文書の発生から廃棄に至るまでの文書管理システムを一新しようとするものでございます。内容といたしましては、導入調査、研修、マニュアル作成、巡回指導でございます。また、このシステムは必要な文書を常に利用しやすい状態にしておくことが目的でございます。

3点目のMANGA共和国事業化推進検討委員会についての御質問でございますが、設置目的につきましては、MANGA共和国構想の事業化条件の整理等具体的な推進策を検討し、あわせ

て民間企業の誘導を図るために設置しようとするものでございます。委員会の構成メンバーといましては、一般企業、金融機関、漫画家等を予定しております。

第4の館山駅橋上駅舎等建設費についての御質問でございますが、JRから示されました概算工事費総額のうち、館山市の負担分は14億4,990万円でございます。これに基づきまして、JRと協議を行い、5億7,000万円を当初予算に計上し、残りの8億7,990万円を債務負担行為としてお願いするものでございます。また、委託契約に当たりましては、市側施設及びJR側施設を一括して契約する予定でございます。

第5の文化振興関係の御質問につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 文化振興費の公演等委託事業及び舞台芸術鑑賞推進事業についての御質問でございますが、館山市が主催する公演等委託事業につきましては、由紀さおり・安田祥子コンサート、人形劇、映画、落語等を予定しているところでございます。また、館山市と文化庁、千葉県、千葉県文化振興財団等が共催する舞台芸術鑑賞推進事業につきましては、ミュージカル、ニューフィルハーモニー千葉オーケストラコンサート、神津善行・中村メイ子・六華仙コンサート、東京ポップスオーケストラ演奏会、文楽特別公演等を予定しているところでございます。今後とも舞台芸術の鑑賞の機会を拡充することにより、地域文化の振興に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田実君） 再質問させていただきます。

1番目の起債でございますけれども、ただいまの御説明によりますと187億ということでございますので、先ほど私が申しあげました広報の数字とこの予算の足したよりもまだ多かったわけでございます。—— 少なければよかったんですけれども、残念で、大変だと思います。そこで、お伺いしたいわけでございますけれども、この説明欄にありますように政府資金によるところの起債額と、それからその他民間からの起債額の割合はどうなっておるのか、お聞きしたいと思います。

それから、2番目に今地方税—— 政府の肩がわりによる—— 地方税により還付されるものについて44%あるということでございますけれども、ここに書いてあるところの市債の名目があるので、この部分について—— 還付される項目について、項目だけで結構でございます。内容の数字がわかればあれですけれども、それはちょっと無理だと思いますので、ここに一覧表が出ておりますので、この一覧表に基づきまして、大体ここじゃ何%ぐらいのものがこの中でもって地方交

付税の対象になる、こういうことを説明願いたいというふうに思います。

それから、今度2番目の点でございますけれども——わかりました。となると、これは研修、研修、さらにはガイドラインというようなものの作成ということになりますから、実際のニューファイリングシステムの作業費というものが無いわけでございます、こちら辺についてはどのように考えておるのか、あわせて——今年度中にある程度条例化にもっていくわけでございますから、こういうものが進んでいかないと、条例ができて文書をつくるというより——私がいろいろ今まで他の市町村等行って研究してきたところを見ると、そして先進地のを見ると、まず第1にファイリングシステム等によって文書整理をきちんとして、その上に立ってやらないといろいろ問題が起きてくるということを言われております。特に小牧の市役所ではその点を——私たちやった経験からいって、まず文書整理をきちんとしてすることが大事だ。その上に立ってやらないといろんな問題が出てくるというようなことを言われておりまして、私もそうだなというふうに考えておりますので、館山市やると逆にになってしまって、条例をつくって、それから文書を整理していくということになりますと、これは何か随分現実的じゃなくなるんじゃないか、まず文書ありきですから。そして、その上についてこれをどうしていくかという問題が条例化されていかないと相当ギャップが出てくるし、問題ももちろん出てくるというふうに思われるんですけれども、この点はどのようにお考えになっておるのか、お伺いをするところでございます。

それから、3番目、MANGA共和国につきましては結構でございます。いろいろ大変だと思いますけれども、これはやりかけた仕事でございますから、そうした委員会の人たちによって事業化へと加速度がつくようにひとつお願いをしていただきたい。それにしては予算がちょっと少なすぎますけれども——わかりました。

それから、4番目の橋上駅舎でございますけれども、今一本化でやっていくということでございますから、この点について今ここでどうこうということは申し上げませんが、私は私なりでかなり——これでもってスムーズにいくのか、後問題残さずにいくかなという点について疑問は幾つかあります。先ほども申したとおり、JRに寄附の面と、それから寄附しない面があるわけでございますから、それらについては支障のないようにひとつお願いをしたい。ここで1点だけ伺っておきますけれども、館山市の持ち分で施行されるところの8億数千万円の——自治省で許可にならない面の残の建物、これは当面は市が管理すると思っておりますけれども、これはいずれ青年館が県の建物で払い下げしないということだったんですけれども、20年ですか——何かたったら払い下げするように、いずれ移管するということはある程度前提にしながらも、しかしながら当面財政運営上、それから駅を許可を得るという形でもって、こういう便宜的に2つの方法をとったというふうに思われるわけでございますけれども、そうした点については考えておられるのかどうか、この点について1点だけつけ加えて御答弁をいただきたいと思います。最後の面に

つきましては、せっかく立派な文化ホールができたわけでございますから、市民に喜ばれる運営ができますようひとつお願いいたしたいと思います。

じゃ以上御答弁をよろしくお願いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、起債の関係でございますが、政府と民間の資金、それぞれ約半分ずつ、50%ずつということでございます。

それから、還付される項目ということでございますけれども、後で地方交付税 — 元利償還に当たりまして地方交付税等で措置される項目でございますが、大きいところでお話をさせていただきたいと思います。まず、地域総合整備資金貸付事業につきまして、地方債 6,000万予定しております。これは、ふるさと誘致にかかわる部分でございますが、交付税充当率は 100%ということになっております。それから、上水道の出資債関係でございますけれども、これにつきましては50%が交付税措置がなされるということでございます。それから、道路橋梁整備事業でございます。3億 9,170万円の起債を予定しておりますけれども、それぞれ充当いたします制度がありますが、1つ辺地関係については80%起債ができて、その起債に対します交付税措置は 100%。それから、橋上駅舎の関係でございますけれども、2億 1,650万円の地方債を予定しておりますが、自由通路分の75%につきまして起債が充当されまして、そのうち48.2%が交付税措置をされるということでございます。それから、臨時税収補てん債につきまして3億円を見込んでいますところでございますが、これについては 100%起債措置、それでその 100%について交付税措置がされるということでございます。このほかにも起債の充当率あるいは交付税措置の状況、それぞれでございますが、各地方債事業につきまして細かに定められているところでございます。

それから、文書管理システム — ニューファイリングシステムの関連の御質問でございますが、まずちょっと先ほどの市長答弁、それから私の説明で印象といたしまして文書管理が不十分ということでお話しいたしましたところ、文書が全くばらばらに保管されていて、その所在が不明だというような印象をお持ちになられたかと思いますが、おおむね文書取扱規程に従いまして保管保存されている状態ではございますが、現在の文書取扱規程に従っております保管の方法が簿冊単位、編冊を中心とするものでございまして、おおむね事業系統単位あるいは担当者単位で管理されております。したがって、そのような状態でございますので、担当者の異動等によりまして、ほかの職員 — ほかの者が容易に検索できないというような状況であるということでございます。このような問題を解決いたしますために、言葉をかしますと、必要な文書をだれでもが利用しやすい状態にするために、文書とか資料の共有化を図っていくというのも大きな目的の一つになっているわけでございます。そういう意味で、新しい文書管理システムを構築しようとしているわけでございます。

それで、ニューファイリングシステム 480万円の委託料の中だと、作業費のようなものが全く見込まれていないのではないかというようなお話でございます。基本的に文書管理 — 新しいシステムに伴います作業は職員が実施いたします。委託先にゆだねる部分はどのような部分かと申しますと、まず特定の課を幾つか選択いたしまして、モデル調査をいたしまして、その調査に基づきましてモデル的な整備、整理の仕方、そういったものをまずやっていくということを委託の大きな1点目としております。それからまた、職員に対する研修でございます。新しいシステムの徹底とこれからの継続制の確保のために、職員に対する研修を2点目としているわけでございます。それから、それらに基づきました館山市に合いましたマニュアルの作成、そういったものを来年度やっていこうという考えでおります。

それから、この関係の第2点目でございますけれども、まず情報公開条例では適切な文書管理があってからの情報公開条例ではなかろうかという御指摘でございます。確かにそのとおりでございますが、情報公開もやはり時代の趨勢といえましょうか、現在の状況の中で急がれております。それで、大変スケジュール的に厳しゅうございますけれども、平成9年度情報公開をにらんだ文書管理システムの構築、それから文書の整理、それから条例化に関する検討をあわせて行っていくこととしております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 橋上駅舎建設に伴います財産管理区分についてでございますが、底地を含めた財産の施設の維持管理区分につきましては、今後JRと協議をして工事施行協定などによります管理区分を明確にしていける予定でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） どうもありがとうございました。特別委員会もあることでございますので、1点だけについて、ひとつ確認の質問をさせていただきたいと思います。

起債に対しまして、交付税によって44%が対処されると、こういうことで、それは非常にいいことで、結構だというふうに思うわけでございます。私は、他の町村ですか — いろいろな市町村長なり財政担当者の方とこういう話をしているときに、国は240兆の赤字も出しちゃってとてもそういう措置どころじゃないらしい、こういうようなことで、現実的には地方交付税入っているということだけでも、別枠でもって補助金出るわけじゃないんだから、あれは意味がない。でもって、金がある場合には — 自主財源がある場合には交付税の中に入っちゃっているものですから、その分としては別枠に来ないんだ、だからあってないようなものと同じだよというようなことを — お茶話の中で出てきているわけですから、現実的にはある程度聞くとそ

うことらしくて、特に今言いましたところの畑の土地だとか下水道とか総合整備の問題については、額は40%なり50%交付されることになっておるけれども、それはこれが交付だよと別でもって、基準財政額に基づいた差額を交付税で措置する、そのほかにこれは別だからということでは来ないということを言われておるわけですから、政府の方もこの財政再建につきましては何か10年かかってちょっと無理だろうというようなことが今言われて、国会でけんけんがくがくしているわけですから、そういう中でもって結局地方自治体にかぶせるというような条件になると、これはただの数字だけになってしまって、財政運営上は44%が別枠というわけにはいかないだろう。この額につきましては、年々利息もつくわけですし、元金も返さなきゃいけないわけですから、それを――特別控除はなされないわけですが、そういうことなのか、その点についてお伺いしたいと思います。運営については、あとは厳しいわけですから、その点がそういう状況なのかどうなのか、結論的には別枠で持ってきて落としていかれるのかということです。その点についてひとつお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確におっしゃいますとおり普通交付税の中身といたしまして、それぞれの起債事業に関する交付税措置というものが明らかにされているわけではございません。しかしながら、現在の財政調整措置としての交付税制度の中にこれらの起債あるいは起債の元利償還に対する交付税措置ということが定められておりまして、私どもの方はその制度を信頼して財政運営を進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質疑を終わります。

次に、6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） 平成9年度の予算につきまして、4点についての質問をいたしたいと思います。

私予算書の方の館山市歳入歳出予算事項別明細書の方を示しながらやっていきたいと思います。まず、70ページ、一般会計の方でございます。70ページ、民生費、そのうちの1目20節扶助費になりますが、ショートステイ措置扶助費についてまずお伺いをいたしたいと思います。在宅で介護をしなければならない方を抱えた家族にとりましては、ショートステイは大変助かっておるといふような状況でございます。8年度途中でございますが、まだ年度末の集計ができてはおりませんが、1年間の今までの利用状況、数字でお示しをいただきたいというふうに思います。また、増床に向けての計画がされているのかどうかをあわせてお伺いします。また、ショートステイの利用者が希望施設に入れるのかどうかという点についてなんですが、ショートス

テイの利用の申請書ですか、申請書の方には3カ所でしたか、希望する施設名をお書きくださいという項目があるわけなんです、幸いにも私の身の回りでは希望施設に入れなかったというような方の意見は聞いていませんが、そういったことがどういうふうになっているかどうかを伺いたいと思います。

次に、その下の同じ節でございますが、高齢者住宅改造、これの費用の助成費についてであります。これ単独事業といたしまして、館山市でスタートした際には、県内でも本当にまだ3市のスタートで、県内でも非常に注目をされておりました。この件につきましては、私も願っていたことがされましたので、非常にうれしく思ったのを覚えております。この事業につきましてはのやはり同じく、年度途中ではございますが、年間の件数を教えていただきたいというふうに思います。できれば、どんなものが利用されていたのか、利用されているのか、おわかりになったら教えていただきたいというふうに思います。

次に、79ページでございます。衛生費に関してなんです、2目のこれは13節委託料、結核検診の委託料について伺います。結核検診については、義務づけがされているというふうに認識をしておりますが、現実には会社の健康診断やら、あるいは受けた方が独自に医療施設に行ってお受けになるというような状況かというふうに思います。ところが、実際に市で行っております検診なんです、全員が受けているかどうかの把握をしておられるのかどうなのか。どうも把握はし切れていないのではないかなというふうに思うわけなんです、推計で結構ですので、どの程度の人たちがこの検診を受けているのかを示していただきたいというふうに思います。

また、この結核検診につきましては、関連でぜひ気にかかって仕方のないことがここ数年ありまして、ぜひ関連でお伺いしなければならない問題がございます。それは、沼地区から特に下町にかけての粉じん公害ともいう言われ方が正しいのかどうかちょっとわかりませんが、私は粉じん公害だと思っております。そういった中で、その地域の人たちへの健康面の心配であります。地区に関しては、たびたび議会でも議論になったこともございますが、業者の方々と地区の方々と協議会をつくりまして、道路の清掃をされたり、努力をされていることは承知しておりますが、毎日の生活をする人たちにとりましては、やはり健康面の心配です、その辺が非常に問題ではないかなというふうに私は思います。実は、去年の残土問題のときに下町の交差点にしばらく立っておりました。この日は風も全くないときでして、非常にダンプの通行も多かったわけなんです、車の通行するたびにまき上がる砂に目をあけていられないような状況にありまして、これは毎日生活する人々にとっては非常に大変な問題だなというのを実感をしてまいりました。そういうことを考えたときに、この地区の人たちの結核検診に関してどういった指導をされるかどうか、あわせてお伺いをいたしたいと思います。

次に、98ページ、商工費の3目19節です。負担金補助金及び交付金の中の館山市地域観光振興

事業補助金に関して伺いをいたしたいと思います。これは、説明によりますと夜間利用ができるように照明設備を設置をする、そういう運営をいたします館山市観光事業協同組合に対して助成をいたしますというふうになっておりますが、館山市観光事業協同組合というのはどういった組織でございましょうか。また、照明設備がされようとしておりますサンフラワーテニスコートと言われておりますが、このテニスコートなんですが、近年市内だけではなく非常にテニス人口がふえている、テニスをする方々がふえてきているというような状況の中で、館山市あるいは県営の施設あるいは民間の施設、こういったところが土、日あるいはシーズンになりますと特にいっぱい、なかなか行けないという声も聞いております。また、これ照明をつけるということは夜間も利用できるわけですね。夜間利用できるところもふえるということになりますと、そういった面でのケアがテニスをする人たちにとっては非常にうれしいのかなというふうに思います。そこで、1つ ― 市の事業じゃありませんので、非常に聞きにくい部分もあるんですが、こういった組合でやっていらっしゃる施設なんですが、使用料に関しまして、市民がテニスコートを使用する際の減額措置というのはないのかなのかどうなのかということをお伺いをいたしたいと思います。

最後に、121ページ、教育費の中の1目19節負担金補助金及び交付金の中の日本体育学校健康センター共済掛金について伺います。共済制度への掛金ということになろうかと思いますが、最近の ― 本年度の事故などはどうであったのかをお伺いをいたしたいと思います。また、その事故に関しましてどのような事故が多いのかも、これもあわせてお伺いをいたしたいと思います。そして、事故とかということに関しますと、今市内の中学校2年生が実習をしております勤労体験学習、これが行われているわけなんですが、この際に、例えば事故が起きた場合この制度が校外ですので、対応するのかなのか、そういったこともお聞かせをください。そして、今までの対見解学習の中での事故が報告されているのかなのか、この点もお伺いをいたしたいと思います。

以上御質問をいたしました、また後ほど答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

議案第1号平成9年度館山市一般会計予算に関します民生費についての第1点目でございます。ショートステイ措置扶助費についての御質問でございますが、本年度の2月末現在利用者数は延べ2,869人で、希望どおりの施設利用がなされているものと理解しております。増床につきましては、安房管内に建設予定の特別養護老人ホームに併設して設置が計画されております。

第2点目、高齢者等住宅改造費用助成費についての御質問でございますが、本年度の2月末現

在利用者数は5件でございます。新年度は、今までの実績に基づき6件を見込んで積算したものでございます。

次に、結核検診委託料についての御質問でございますが、勤務先や病院等で結核検診を受診している人の割合は約47%と推計しております。また、粉じんにかかわる地元住民に対します検診につきましては、館山市で実施しております総合検診及び結核検診で対応していただいております。

次に、館山市地域観光振興事業補助金についての御質問でございますが、多様化する観光客等のニーズへの対応と利便性の向上を図るため、館山市観光事業協同組合が実施いたしますテニス及びフットサルコートへの照明設備設置事業に対しまして助成するものでございます。なお、利用料金の市民割引につきましては、組合経営の観光施設でございますので、御意見としてお伝えいたします。さらに、館山市観光事業協同組合の構成につきましては、部長より御答弁申し上げます。

4番目の日本体育学校健康センター関係の共済制度の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 日本体育学校健康センター共済制度の給付状況と事故の種類についての御質問でございますが、平成7年度の給付件数は366件でございます。内訳は、小学校207件、中学校145件、幼稚園14件でございます。また、事故の種類は、骨折118件、捻挫86件、挫傷57件、打撲35件、その他靱帯損傷等70件となっております。なお、勤労体験学習での事故はございません。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

（経済環境部長小沼 晃君登壇）

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山市観光事業協同組合についての御質問にお答えいたします。

この組合は、昭和56年県の第2次新総合5カ年計画の中で、スポーツの里整備事業が位置づけられまして、館山市も事業地域に指定されたものでございます。この事業推進組織といたしまして設立された組合法人でございます。なお、組合員でございますけれども、ホテル、旅館、民宿、ペンション等の観光業者で組織されているものでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

ショートステイの件なんです、現在のところはということなんです、これから富浦ですと

か計画されています施設は確かにあります。そして、現在も館山の市内ですとデイセンターのように特別養護老人ホームあるいは三芳あるいは鴨川などを利用されての利用になるのかなというふうに思いますが、利用する方が希望するところには入れるのかどうなのかということのを再度お聞きをしたいというふうに思います。そして――ショートステイはその程度におさめます。

次に、高齢者の住宅改造の助成の件なんです、主にどんなものに助成をしたのかというふうなことをお聞きをいたしたいと思います。限度額が30万ですよ、その中でどんなものが助成をされておるのかというふうにお聞きをいたします。そして、私自分で身近に感じるんですけども、非常に私たちの身の回りでも、たしか老人保健福祉計画を立てるときは在宅介護に向けてというようなことを言っていましたけれども、いや、実は施設入所の方がふえるんじゃないかというような感触を実際受けておりました、私自身も。ところが、ここにきまして、在宅での介護の方に向かっている方々が非常にふえているんじゃないかな、余り施設を頼らなくなったというのかな。あるいは、私は在宅ケアのサービスが行き届いてきたと言いたいところなんです、まだ余り大きな声で行き届いてきたとは言える段階ではありませんけれども、しかし、徐々にではありながら、やっぱり在宅ケアのサービスが少しずつ行き届きつつある状況がこういった在宅で――おうちで過ごされる方がふえてきたんじゃないかなというふうな感触を実は持っております。

そういったことの裏づけとしてちょっとお聞きをしたいんですが、日常生活に係る器具の貸し出しのサービスがあります。そういったサービスの利用状況はいかがでしょうか、あるいは相談といったことも含めましてどうなんでしょうか、それもお聞きをいたしたいと思います。それから、これはいつも言っていることなんです、この事業が始まったときは本当によかったと思いつつも、評価をしながらも、お願いしてきたことはやっぱり限度額の増額であります。30万の限度額ですが、もう少し上げてもらえないかというようなことを常々言っております。この増額に関して、またいま一度考えていただけないかということをお聞きをいたしたいと思います。

結核検診についてなんです、何年かに1度ですか、アンケートみたいな方式で市民に対して検診を受ける受けない、あるいはどこで受けているかというようなことをとったことも以前ありました。そういった中での数がやっぱり推計でしか出ないというのは、こういった47%という推計をいただいたんですが、それも今の中では仕方ないのかなというふうに思いますが、また何かこれは方法変えて少し考えて、やり方も含めて、調査なども含めまして考えていってほしいなというふうに思います。

粉じんのことなんです、市の総合検診で対応するということなんですけれども、市には市民の健康をやっぱり守っていく、支えていくという義務があるわけですから、やっぱり粉じん公害で体がおかしいとかというような声が出る前に、これは市としてああいう中で生活されている方々のやっぱり健康面というのはぜひ考えていただきたいなというふうに思います。実際に私自身

が体験しましたけれども、本当に数時間でした。数時間でしたけれども、店の方々も店をあけて
いられないで、全部前は締め切りでされていますし、私も耐えられなくて何度か近所の知り合い
のお店の中に入り込んだりとしながら、あそこにちょっと立ったわけなんですけれども、非常に
—— 天候のかげんもあるかもしれません。あるいは清掃されている方々のやっぱり時間的なこと
もたまたまあったのかもしれませんが、毎日生活している市民の健康はやっぱり考えてい
ただきたいというふうに思います。

次に、テニスコートの件なんです、これ民宿の方々がやっぱり集客ということも考えての一
環みたいな部分もあるかと思います。確かにそういった面での利用者がふえているというふうな
こともお聞きをしておりますが、これは市の確かに施設でありませんで、非常に減額に関して
は言いづらかうなとは思いますが、若干ほかの施設より高目というようなことがございますの
で、お口添えをいただけるということであれば、それはぜひお願いをしたいというふうに思
います。

最後に共済制度の件なんです、私はちょっとこれは誤解していたんですが、学童災害とのか
わりの中で、非常にこれは誤解を私自身がしてたんですが、これはこの制度が利用できるのは、
いわゆる校長の管理下における機関のことということでよろしいんですね。この件数今ちょっ
と伺ったんですが、これは例えば登下校も校長の管理下になるかと思います。登下校の際の事故
なのか、あるいはいわゆる部活の事故なのか。中学生の数はともかくといたしまして、小学生の
事故がちょっと気にかかるものですから、その辺をちょっとお伺いできたらと思います。

それで、事業所への勤労体験学習の件なんです、この学習 —— 授業ですよ、授業の一環で
しょう。これは非常に子供たちにとって —— 子供たちにとってというよりも親御さんにとってと
言った方がいいのか、非常に喜ばれているようです。大分1日でも成長して帰ってくる部分があ
るようです。これはいいことなんです、ここにあってつけ加えていただきたい問題が1つある
んですが、特に中学校に関してなんです、勤労体験学習の中でも、例えば福祉施設への学習も
入っております —— 入っておるところもあると思います。福祉施設への体験学習をこれとはまた
別枠で義務化みたいなことができるのかどうなのか、その辺のお考えをお聞かせをいただきたい
というふうに思います。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄） 御質問の第1点目のショートステイでは希望するところに入れる
のかということでございますけれども、現在のところ希望どおり利用されているという状況にご
ざいます。

それから、2点目の高齢者等住宅改造費の改造の中の工事内容という御質問でございますけれ
ども、今年度利用につきましては先ほど市長がお答えしましたとおり5件でございますが、この

内訳を見ますと、高齢者の方が3件、身障の方が2件ということで、工事の内容につきましては、浴室、トイレ、居室の改造、それから通路等の手すりの取り付け、こんなような内容で工事をされているようでございます。

それから、3点目の日常生活用具の給付状況という御質問でございますけれども、これにつきましては、平成8年度では対前年度比で20%の給付の実績が伸びております。給付の内容でございますけれども、特殊寝台、それから便座だとか紙おむつ——これは給付ですけれども、紙おむつ、それからエアーパット、こんなような給付の内容でございます。この制度につきましては、在宅生活の支援、日常生活用具の給付、大いに役立っているものというふうに理解をしております。

それから、4点目の助成——いわゆる高齢者の住宅改造に対する助成制度の限度額の引き上げという考えないかという御質問でございますけれども、今千葉県で単独事業でやっております生涯者社会生活支援特別事業、この中に住宅リフォーム事業という制度がございます。この制度の中でも県での限度額は30万円ということになっておりますので、館山市におきましても現行の30万円を今さらに引き上げるということは現在考えておりません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 3点御質問があったように伺いますので、それについてお答え申し上げます。

1つは、議員さんおっしゃるように学童災害と健康センターのものとは違いまして、ここで言っておりますものは学校の管理下、言うならば教育課程の中に組み込まれているものに対象とされております。ですから、登校、下校も含まれる、もちろん勤労体験学習で外に行った場合も、これは教育課程の中に入っておりますので、対象になるということでございます。そして、学童災害というのは学校の管理外で、個人でやった場合にその共済というのが行われているということでございます。

2点目につきまして、学習の義務化というようなことになってまいりましたけれども、これは福祉教育の義務化ということは今後どうなるかわかりませんが、福祉教育の内容的な理解というものは既に学校の教育内容に位置づけられているところでございますし、学校に指定校等を設けまして、それらの点についても研究をし、実践をしているところでございます。ちなみに、館山市におきまして、現在は神余小学校がそれを実施しておりますし、一昨年までは第一中学校もやはりその対象校として研究をしていたところでございます。そして、それを将来についてどうなのということがございますけれども、これは将来ボランティアというようなことにつきまして、生涯学習体系の中でこれは必要になってくることでございまして、ボランティアの発祥は

福祉教育から始まる、福祉学習から始まるという認識に立っておりますので、内容をやりませけれども、体験的なものについての義務づけはちょっとわかりませけれども、中学校における職業観という進路指導の立場ではこれは必要になってくことと、今後は位置づけが多くなるだろうと思うし、ますます子供たちの体験していく学習の場は小学校も中学校も高等学校においても、これからは多くなると思います。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、最後にお願ひだけしておきたいと思うんですが、今の学校の教育の件なんです、一つははっきりさせておきたいというか、しているんならそれで結構ですが、事業所に行った場合の——体験学習の中で、もし万が一事故があった場合の行った先の事業所との関係の中というか、事故が起きた場合の問題、それをちゃんとクリアしていただきたい。されているのであればそれで結構です。もしできていなければ、それはきちんとしていただきたいというふうに——せっかくのいい授業がむだになるようなことになっては困りますので。

福祉施設の研修のことなんですが、やはり思いやりを持った子供たちを育てていくということをきちんとうたっているわけですから、また今のちょうど子供たちが高齢者を迎えた一番大変な時期に差しかかるということも含めまして、背景もきっと変わってくるかと思いますが、ぜひその方でも推進をしていっていただきたいということをお願いして、終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第8号、平成9年度各会計予算につきましては、9人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することとしたと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定により、

2番議員 本 橋 亮 一さん

5番議員 忍 足 利 彦さん

8番議員 増 田 基 彦さん

10番議員 宮 沢 治 海さん

12番議員 植 木 馨さん

14番議員 永 井 龍 平さん

17番議員 岩 村 勝 弘さん

23番議員 石 井 昌 治さん

25番議員 飯 田 義 男さん

以上9名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承をお願いいたします。

議長の報告

◎議長(山中金治郎君) この際申し上げます。

陳情第20号安全な飲料水生活維持のための残土による埋め立て造成計画に関する陳情書につきまして、陳情者から一部訂正したいとの申し出がありました。訂正後の陳情書を配付いたしますので、御了承のほどお願いいたします。

延 会 午後0時13分

◎議長(山中金治郎君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明14日から23日までは委員会審査のため休会、次会は3月24日午前10時開会といたします。その議事は、議案第1号乃至議案第35号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは3月24日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第1号乃至議案第8号

1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任